

### 第3回第二言語習得研究会佐々木嘉則賞 受賞論文

#### 【受賞論文】

「接続詞『で』の指導に関する実験的研究

—インプット洪水・インプット強化・明示的な文法説明の効果—

『第二言語としての日本語の習得研究』16号, 2013年, pp.196-213.

執筆者 宇佐美恵子 (名古屋産業大学)

#### 【受賞理由】

本論文は、接続詞「で」に関して、インプットの種類および明示的な文法説明の有無という観点から、指導法の効果を明らかにしたものである。3種類（洪水群・強化群・明示群）の実験群に対する指導の効果を比較することで明示的な文法説明の効用を明らかにしただけでなく、さらに追跡調査およびフォローアップインタビューを行うことにより、指導後も学習者が継続的に「で」に意識を向けることが効果の持続に貢献することを実証した点に意義がある。著者自身も指摘しているように、明示群の実験条件に改善の余地はあるものの、本論文の知見は指導の効果に関する研究の発展に貢献するだけでなく、教育現場にも直接寄与するものが大きいと考えられる。

よって、本論文を第3回佐々木嘉則賞授賞論文として選考する。

## 要旨

### 接続詞「で」の指導に関する実験的研究 —インプット洪水・インプット強化・明示的な文法説明の効果—

接続詞「で」に関して、学習者は日常的に多量のインプットを受けているにも関わらず、気付きにくい言語形式であるため、使用には至らないという指摘がある。本研究では「で」に注意を向けさせ、使用を促進するための効果的な指導法を明らかにするため、実験的な手法を用いて調査を行った。被験者をインプット洪水のみが与えられる洪水群、それに加えインプット強化が与えられる強化群、さらに明示的な文法説明が与えられる明示群に分け、ナレーションタスクを指導の前後に実施し、実験群間の指導の効果を比較した。その結果、「で」の使用を促進するには明示的な文法説明が必要であることが明らかとなり、明示群では指導の効果は1ヶ月後、学習者によっては4ヶ月後まで持続していることが明らかとなった。明示的な文法説明を行うことで学習者の注意が「で」に向き、指導後も継続的に「で」に意識が向けられたことがこのような結果となった要因だと考えられる。

### Experimental Research for Instruction of the Japanese Conjunction *De*: The Effectiveness of Input Flood, Input Enhancement, and Explicit Grammar Explanation

This study examines the effects of instruction on the learning of the Japanese conjunction *de*. Three different treatments were employed: input flood (Flood Group), input flood plus input enhancement by the use of subtitles (Enhancement Group), and input flood plus input enhancement plus explicit grammar explanation (Explicit Group). Outcomes of these treatments were compared in a controlled experimental study involving 55 students of Japanese. The effects were measured utilizing a pre-test, post-test, and a delayed post-test by the narrative task. The results indicate that the explicit grammar explanation had the most significant effect on the learning of the Japanese conjunction *de*.